青々会報

発行所
東京都武蔵野市境5－8
亜細亜大学同窓会 青々会
電話　0422－51－1600
FAX　0422－51－0929
振替・00100－2－80629

定時総会は再延期

現役員の任期も

来年6月に予定

1年間延期して本年6月に開催する予定だった「定時総会」は、再延期することとなった。

新型コロナウイルスの感染状況が拡大と小康状態を繰り返している状況であり、会員の健康・安全を最優先に考え、会場となる母校キャンパスへの学生以外の立ち入り制限が解除されないことなども踏まえ、来年度に再度延期することとなった。3月に開いた三役会で決まったもの。

なお、定時総会の再延期に伴い、現役員の任期も来年6月の定時総会開催まで再延長となる。

令和4年度 協議員会

今年度もコロナ禍により書面による議決権行使での開催とした。

（協議員数198名・回答162名）

第1号議案　令和3年度事業報告・決算報告について
賛成　162　反対　0

第2号議案　令和4年度事業計画(案)・収支予算(案)について
賛成　162　反対　0

各議案は過半数の承認をもって承認された

令和4年度幹事会

令和4年度第1回幹事会を令和3年11月20日(土)青々会本部会議室で新型コロナウイルス感染防止に十分に配慮して2年ぶりの対面での会議を実施した。

幹事数65名
出席者22名　委任状提出41名

第1号議案　令和3年度事業報告・決算報告について
第2号議案　令和4年度事業計画(案)・収支予算(案)について
第3号議案　青々会賞及び組織活性化賞について

青々会賞

（個人の部）
◎岡留　英貴（法4年）
硬式野球部

（団体の部）
◎該当なし

組織活性化賞

（支部対象）

コロナ禍で令和3年度は支部活動を中止したので表彰を行わない。

▶2部構成で行われた令和3年度卒業式

午前・午後で「卒業式」

1か所挙行は3年ぶり

令和3年度卒業式が、3月15日に3号館講堂で行われた。午前と午後の2部構成となったが、数百人の学生が1か所に集まっての卒業式は3年ぶり。午前と午後のいずれでも青々会の落合寛司会長が祝辞を述べた。

令和3年度の卒業生数は、学部全体で1507人、大学院全体で34人だった。学部学科ごとの卒業生数は次のとおり。

▽経営学部経営学科351人▽経営学部ホスピタリティ・マネジメント学科141人▽経済学部経済学科240人▽法学部法律学科342人▽国際関係学部国際関係学科137人▽国際関係学部多文化コミュニケーション学科146人▽都市創造学部都市創造学科150人▽大学院博士前期課程修了者34人

▲会場の3号館講堂に向かう卒業生ら

ご寄付・募金のお願い

「日の出キャンパス再開発計画事業」などで

＜第3面に詳細を＞

母校では教育研究環境の充実を目的とした「教育研究振興資金」と「亜細亜大学スポーツ振興施策3カ年計画」に基づき老朽化した日の出キャンパスの各スポーツ施設を全体的に整備するための「日の出キャンパス再開発計画事業募金」を同窓生にも広くお願いすることとなった。

日の出キャンパス再開発（第3期工事計画）の概要は次の通り。

①テニスコート整備工事（4面の新設・移設、既存コート6面の改修）
②ランニングコース整備工事（全長1、120m）の整備
③多目的グラウンド人工芝敷設・雨水排水工事
④硬式野球場防球ネットの一部新設、多目的グラウンド照明の新設
⑤南側・正面駐車場改修、グローバーエリア整備、倉庫新設等
⑥雨天練習場・日の出第2寮・寮監舎・洋和弓場の解体
⑦可動式観覧席、テニスコート・人工芝の整備用品、サイン表示等の什器備品購入

総工費は8億3千4百万円で、本年4月から令和5年3月までの工期となっている。

募集・募金期間は、「教育研究振興資金」が、2027年3月31日まで、「日の出キャンパス再開発計画事業募金」が、2023年3月31日までである。詳しくは、今回同封したパンフレット及び大学のホームページをご覧ください。

新学長に永綱憲悟教授

任期は令和6年9月までの3年間

令和3年10月1日付で永綱憲悟（ながつな　けんご）教授（国際関係学部）が学長に就任した。任期は令和6年9月末。

永綱新学長（写真）の主な略歴等は次のとおり。

東京大学大学院法学政治学研究科第一種博士課程単位取得満期退学、昭和59年4月、亜細亜大学経済学部国際関係学科講師、昭和62年4月、同国際関係学科助教授、平成8年4月、国際関係学部国際関係学科教授。

平成19年4月から平成22年3月まで、大学評価・学位授与機構学位審査会専門委員。平成22年4月、国際関係学部長及び学校法人亜細亜学園理事。

なお、副学長には須永隆経済学部教授と伊藤裕子国際関係学部教授がそれぞれ就任した。任期は令和3年10月1日から1年間。

（第4面に永綱新学長の原稿（挨拶）を掲載）

令和5年度の同窓生子女入試の概要

卒業生（青々会会員）の子女、弟妹、孫及び在学生の弟妹を対象とした入試制度「同窓生子女入試」の令和5年度の募集要項が決まった。

募集するのは国際関係学部を除く4学部4学科。経営学部経営学科と同学部ホスピタリティ・マネジメント学科、都市創造学部都市創造学科がいずれも若干名の募集で、経済学部経済学科が3名、法学部法律学科が4名の募集である。

選抜方法は、①基礎学力テスト＝国語（古文・漢文を除く）、英語の2科目合わせて90分＝と、②面接、③書類審査の総合評価で合否を判定。

試験日は令和4年11月27日(日)で、出願期間は11月1日(火)から11月7日(月)までの1週間と短い（出願書類の郵送は締切日有効）。合格発表（Webによる合否発表）は12月5日(月)。

住所などの変更は本部までご連絡を

就職・転職、結婚などにより、住所や勤務先、あるいは氏名の変更があった場合は、お手数ですが、青々会本部までご連絡をお願いします。

特に令和3年度卒業生の皆さんは、この青々会報を初めて手に取るわけですが、年に1回、この時期に発行・郵送しております。発送先の住所やあて名にも影響しますので、ご連絡を忘れずにお願いします。

ご連絡は、電話（0422－51－1600）かメール（seigekai@asia-u.ac.jp）でお願いします。

（青々会本部）

笹原副幹事長、荒木前常任幹事が逝去

青々会の現副幹事長・笹原隆志氏（昭和47年度卒）が、令和3年8月21日に逝去されました。享年71。

笹原氏は平成21年6月から副幹事長を務めていました。

また、前常任幹事だった荒木邦夫氏（昭和46年度卒）が、令和4年1月24日に逝去されました。享年74。

荒木氏も平成21年6月から平成30年まで常任幹事を務めていました。

ここにお二人のご冥福を心からお祈りいたします。

卒業生同士など相互交信・交流可能に

▼令和3年度卒業生全員に配布したネットワーク活用を呼びかけるカード（実寸）

QRコードは左が青々会のホームページ、右が新設した「掲示板」

新たに「掲示板」開設

ホームページに「アジア青々会ネット」

青々会の独自ホームページは、これまで数度にわたってリニューアルを行ってきましたが、このほど双方向による交流ができる掲示板を新設しました。

「アジア青々会ネット―亜細亜大学　卒業生・在学生のための交流掲示板―」というタイトルで、卒業生同士はもちろん、在学生とも相互に交信・交流できるというものです。例えば、同じクラブや団体の同級生や先輩・後輩、さらには現役学生ともつながることができるようなシステムになっています。まずは「ユーザーマニュアル」から個々人で登録してもらい、様々なジャンルごとに投稿してください。コロナ禍でできなかった懇親会や交流会の開催案内（会員や会員企業とのビジネスマッチングや若手交流会などの情報）が個人レベルで投稿・掲出できます。

まずは今回記載したQRコードから青々会ホームページや新設の交流掲示板から活発に投稿、アップをしてください。

令和4年度事業計画

（令和3年10月1日～令和4年9月30日）

令和3年度事業に大きな影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症は、ワクチン接種の推進や治療薬の開発等で感染拡大に歯止めがかかりつつあるも、令和4年度も厳しい状況が続き収束には時間がかかると考えられます。このような社会状況において青々会令和4年度事業は、ウィズコロナでの事業運営が求められ感染防止対策に配慮した事業活動を推進する。

以上により令和4年度の事業計画を次の通り提案する。

＜本年度事業計画＞

1定時総会の開催（会則第15条関係事業）

定時総会：令和4年6月26日(日)開催予定。

前年度開催予定であったが、コロナ禍で開催を中止した。

令和4年5月以降ホームページに定時総会の開催日時等について告知します。

2青々会ネットワークの取組み

ネットワークの強化を図るため次の取組みの実施。

◎ホームページに新設の「交流掲示板」を活用したビジネスネットワークの構築及び交流の場の企画を検討する。

3ホームページの充実

青々会の重要事項及び総会開催の告知はホームページを活用する。また青々会本部、各支部及び大学の情報の迅速な配信に努める。

新企画として交流掲示板を新設し、総会・イベントのお知らせ、事業者紹介ページ及び卒業生企業の求人情報等ネットワークに係わる相互配信可能なコンテンツの取組みを行い、利用者の確保と使用頻度の増加を図る。

4会報発行（会則第5条第1号関係事業）

「青々会報」の発行：今年度より年1回の発行、第118号を令和4年7月に発行する。

5定例協議員会の開催（会則第19条関係事業）

令和3年11月3日に開催の令和4年度協議員会はコロナ禍により書面議決により開催する。

6幹事会の開催予定（会則第22条関係事業）

令和4年度第1回幹事会は令和3年11月20日(土)に開催する。

令和4年3月、6月、9月の開催はコロナ対策を実施し、開催予定。

7会議・会合の開催（会則第5条第2号関係事業）

1）三役会の開催

幹事会開催時に開催する。また新たな状況の発生及び会長の要請により開催する。

2）大学首脳陣とのコミュニケーションの促進

大学と青々会との相互理解を深めるため懇談の場を企画する。

3）「同窓生子女入試」について

今年度も卒業生子女、弟妹、孫に関する特別推薦枠入試は経営学部若干名、経済学部4名、法学部4名及び都市創造学部若干名で募集される。

8興亜神社例祭の挙行

コロナ禍により一般の参列を中止し、青々会と大学の関係者で挙行する。

開催日：令和3年11月3日(水)午後2時30分～午後3時

場　所：興亜神社境内

9第28回「ホームカミング・デイ」の開催

コロナ禍により令和3年11月3日の開催を中止する。

10「新春の集い」の開催

令和4年1月の開催を検討（実行委員は平成元年度卒と同16年度卒）。会場はASIA PLAZA4階で、借用について大学と協議、コロナ感染対策上飲食での使用許可がでない場合中止する。開催の有無については12月にホームページに告知する。

11連合会・支部活動への協力（会則5条第5号関係事業）

1）連合会・支部総会開催協力

連合会長・支部長に総会開催の判断に任せる。開催に際しては本部より案内状発送、出欠確認、及び祝電、お祝金の贈呈とコロナ感染防止対策をお願いする。

また本部からの出席については開催時期の状況判断により検討する。

2）海外支部活動への協力

母校国際連携部インターナショナルセンターとの連携・協力を緊密にし、留学卒業生の情報共有により海外支部の支援を図る。

12在学生活動の支援

1）青々会奨学金

青々会奨学金については、各学部で優秀な成績を修め、大学から推薦の学生に1人10万円（成績ポイントが同点の場合折半）の奨学金を授与する。各学部2年次以降各年次2名、都市創造学部は2年次以降各年次1名授与予定。今年度も27名に授与する予定。

2）在学生諸活動の援助

在学生が活動を再開したときは要請に応じて学友会、県人会連合会、アジア祭、文連祭、クラブ活動及びボランティア活動等に対して、本年度も援助を実施する。

3）青々会賞授与

「母校の名声を高めた在学生の個人または団体」に対し青々会賞の授与を継続して行う。毎年11月3日の協議員会の席上で授与しているが、今年度の協議員会は書面議決のため授与方法等を大学と協議する。

4）学友会執行部との交流

今年度の交流はコロナ禍により中止する。

13組織活性化

1）大学とも連携を取り合いながら共同歩調で次の検討を進める。

・連合会・支部総会活性化支援

・硬式野球部OB会連携支援及びクラブ、ゼミ及び寮OB会の名簿等作成依頼時に際し支部総会参加への要請。

2）個人情報保護に関する取組み

個人情報保護に十分意を持ちながら会員名簿管理の徹底に努める。

なお、各支部からの要請による支部会員名簿の配付事業は従来通り継続する。

3）連合会長・支部長会議

コロナ禍により今年度の開催を中止する。

4）活性化に貢献した支部及び個人の表彰

コロナ禍で令和3年度は、青々会活動も中止した。よって今年度の表彰関係は取りやめとする。

5）母校の硬式野球部、陸上競技部の部員を対象とした青々会スポーツ活動支援奨学金制度の募金活動を継続して行う。

14在校生応援活動

1）硬式野球部応援活動

2）陸上競技部応援活動

15会員自主活動の協力（会則第5条第4号関係事業）

1）会員及び支部役員からの問合せ・相談等の対応

2）クラブOB会、ゼミOB会、寮関係OB会

在学生から提出されるクラブ、ゼミ及び寮関係のOB名簿により修正作業を行うとともに、会合開催の支援とし「名簿印字、宛名シール印字」などを行う。

16事務局関係（会則第5条第4号関係事業）

1)ウィズコロナでの事業、会議体運営体制の構築、またデジタル化ついて検討する。

2）事業運営費の精査

会員増に伴い年々増加する事業運営費について精査し、事業実施に伴う経費の有効活用と事業効率化・経費の活用等について三役会、幹事会等の会議体で検討をする。

3）大学との連携強化

事務局と大学学生部と定期的に会合を実施し、青々会業務への理解と相互の協力体制の確立を図る。

4）会員移転先不明者追跡調査

年1回の会報並びに支部総会案内状送付のあて先不明での返送分は、年間約1、000件前後で推移している。

引き続き返送されたあて先不明者について調査を実施し、正確な会員情報の把握に努める。

5）新会員（令和3年度卒業生の住所、就職先、ゼミ・クラブコード）のデータ入力。

6)個人情報保護法に則り、会員情報の取扱いを行う。

以上

令和4年度　収支予算書

（自令和3年10月1日～至令和4年9月30日）

（単位：円）

科目	令和4年度予算額	令和3年度決算額	差異	摘要（予算説明）
【収入の部】				
会費収入	33,945,000	34,090,000	△145,000	
当年度会費	33,556,000	34,090,000	△536,000	令和3年度青々会会費
過年度会費			0	
特定会費	390,000	0	390,000	新春の集い、同期会計 会費3千円×80名・大学15万円
業務委託料	1,000,000	1,000,000	0	令和03年4月～令和04年3月間の名簿管理委託料
受取利息	107,000	107,549	△549	基本財産定期預金利息
寄付金収入	0	0	0	
当期収入合計	35,052,000	35,197,549	△145,549	
前年度繰越金	37,983,652	29,549,672	8,433,980	
収入合計	73,035,652	64,747,221	8,288,431	
【支出の部】				
人件費	8,350,000	8,341,800	8,200	
給与	7,900,000	7,908,400	△8,400	事務局員・常任幹事・パート
通勤手当	450,000	433,400	16,600	通勤定期代
退職金	0		0	
消耗品費	20,000	12,126	7,874	事務用品
印刷費	150,000	15,400	134,600	支部総会案内往復葉書印刷
通信費	250,000	226,180	23,820	電話・FAX、ビジネスフォンリース・会議資料郵送等
交通費	2,100,000	120,000	1,980,000	連合会、支部総会活動開始を04年1月以降目途に計上
賃借費	40,000	38,940	1,060	ダイナック同中プリンターリース期間満了(年度リース料に)
会報費	6,000,000	11,109,970	△5,109,970	年1回の発行とした。
印刷費	1,000,000	1,640,112	△640,112	会報118号04.07頃発行予定 4ページを8ページ
会報発送費	5,000,000	9,469,858	△4,469,858	会報発送費6万部・海外12箇所
奨学費	2,700,000	2,700,000	0	27名×10万
補助費	850,000	210,000	640,000	青々会賞8名予定・学友会活動03年10月開始目途に計上
援助費	6,500,000	426,567	6,073,433	連合会、支部総会開催時支援
支部援助費	6,000,000	426,567	5,573,433	04年3月より支部総会活動開始で計上
連合会援助費	500,000	0	500,000	連合会総会活動開始（16連合会）
行事費	0	0	0	興亜神社例祭03年11月3日関係者のみで挙行
会合費	1,350,000	1,496	1,348,504	
総会費	350,000	0	350,000	04.06月開催予定
会合費	1,000,000	1,496	998,504	幹事会開催予定・新春の集い開催35万円計上
会議費	0	0	0	03年11月3日ホームカミングデイ今年度中止
ホームページ費	3,100,000	3,448,500	△348,500	HP新コンテンツ運営毎月額103千円新規計上
雑費	150,000	109,610	40,390	振込手数料、慶弔関係他
備品費	1,300,000	2,980	1,297,020	パソコン新規61千円・会計ソフト更新81千円・シュレッダー購入150千円
当期支出合計	32,860,000	26,763,569	6,096,431	
当期収支差額	2,192,000	8,433,980	△6,241,980	
次年度繰越金	40,175,652	37,983,652	2,192,000	

（注記）　1．△は、前年度決算額に対する当年度予算額の増・減(△)記号。

2．経理規程第25条に則り、事業部門の予算を流用することができる。

卒業生のネットワーク（アジア青々会ネット）を強化しよう

青々会会長　落合　寛司

会員の皆様におかれましては、このコロナ禍やデジタル化などの世界的変革期の中においても、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

青々会の活動は、コロナ禍の関係で自粛しておりますので会員の皆様との交流ができていないこと心よりお詫び申し上げます。特に新しく卒業し新会員になられた方々には、ご挨拶もできず心苦しく思っております。

そのような中で亜細亜大学は、本年80周年を迎え更に飛躍しておること卒業生として心よりお喜び申し上げます。

大学の更なる飛躍には、卒業生の皆様方の社会や職場での活躍が大変重要になります。

そのため、青々会は、このコロナ禍の中においても、卒業生の社会や職場での活躍ツールや魅力づくりのため色々な活動をしております。

このような中で以前より海外も含めた10万人を超える卒業生を中心としたビジネスや豊かな暮らしを支援するためなどのネットワークづくりを進めてまいりましたが、ここに「アジア青々会ネット」が青々会のホームページの中で完成いたしました。

青々会はここ数年ネットワークづくりに力を入れております。なぜならば、デジタル化の進展や先進国を中心とした成熟社会や高齢化の進展また化石燃料を中心とした社会から脱炭素を中心に環境を重視した活動等世界的な変革期を迎えている中で、この変革期をチャンスととらえるためには、ネットワークを有効に活用することが、重要となるからです。

そのため、「アジア青々会ネット」は、①卒業生や在校生のための交流掲示板②会員や会員企業とのビジネスマッチングやビジネス交流会等での活用③青々会若手交流会等での活用を中心に構成されています。

具体的な活用例としては、兼職や転職を希望している会員には、社員を募集している企業や専門知識を一時的に活用したい会員企業と出会いができるようにする。

あるいは、豊かな生活を満喫しようとしている会員には、観光事業などを運営している会員との出会いが簡単にでき安心して素敵な旅ができるようにする。

東京にお孫さんなどが賃貸で住居をお探しの場合は、東京で不動産事業を運営している会員との出会いができるようにする。

東京に進出したい企業があれば東京にいる金融機関やコンサルタントなどの会員と出会えるようにする等多種多様なネットワークの活用が可能になりました。

また、これからの海外ビジネスの重点地域であるアジア地域には1千人を超える卒業生が居るので今後は海外ネットワークも強化してゆきたいと思っております。

なぜ、青々会のネットワークづくりにこだわるのか？それは、ネットワークには色々ありますが青々会の同窓ネットワークは人的ネットワークとして大変強固なものになりうる可能性が高い。なぜならば、初対面の人でも同じ大学の卒業生と言われるだけで親しみや信頼が生まれるこのネットワークの魅力を強化して行き、会員間のメリットとして行くことが重要であると思うからです。

そして会員間の知識・機能や情報等をお互いに有効活用し、ビジネスや豊かな人生等に役立てて行くことで、この変革期をピンチではなくチャンスにして行きたいと思っています。

しかし、まだ完成してから日が浅いことやコロナ禍で支部総会が開催できないことなどから情報の入力が進んでおりませんので是非一度青々会のホームページからアクセスしてみてください。

このネットワークの主役は、現役ビジネスマンやウーマン・亜細亜大学の学生・現役を退いた青々会のメンバーの三者です。是非ともご協力をお願い致します。

令和3年度事業報告はHPで

事務局だより

青々会人事

支部長（新任）

■秋田県支部
令和3年11月13日
工藤　清光　氏

訃報

（　）内は逝去年月日

●昭和19年度卒
大石　栄　氏
（令和3年4月9日）

●昭和22年度卒
山口　源衛　氏
（令和2年12月17日）

大形　敏郎　氏
（令和3年3月8日）

●昭和25年度卒
中野　良男　氏
（令和3年4月）

●昭和26年度卒
斉藤　憲夫　氏
（令和3年4月）

（クドウ　セイコウ）
昭和48年度経営学部卒
「秋田支部が再発足して32年。コロナ禍での支部活動も大変ですが、現会員でなんとか頑張っていきたいと思っています。」

●昭和27年度卒
藤本　豊彦　氏
（令和元年11月11日）

●昭和30年度卒
山崎　誠一　氏
（令和3年6月2日）

●昭和31年度卒
畠山　政治　氏
（令和2年3月30日）

●昭和34年度卒
森　正光　氏
（平成28年10月16日）

永井　寛二　氏
（令和2年11月）

●昭和36年度卒
小山　一右　氏
（令和3年7月21日）

●昭和37年度卒
栗原　繁　氏
（令和元年8月3日）

浅見　祐次　氏
（令和2年2月17日）

相崎　邦彦　氏
（令和3年1月8日）

●昭和38年度卒
竹山　有　氏
（令和3年6月）

●昭和39年度卒
笠井　穎　氏
（令和元年7月21日）

●昭和40年度卒
池田　信政　氏
（令和元年10月25日）

●昭和41年度卒
海上　博方　氏
（令和3年4月27日）

●昭和42年度卒
山田優美子　氏
（平成30年7月）

内海　直樹　氏
（令和2年6月21日）

●昭和44年度卒
高谷　夏彦　氏
（令和2年4月25日）

高橋　秀夫　氏
（令和3年2月15日）

●昭和45年度卒
糸氏　哲郎　氏
（令和2年11月4日）

渡辺　栄　氏
（令和3年1月6日）

篠田　康夫　氏
（令和3年5月）

小林　章雄　氏
（令和元年7月21日）

●昭和46年度卒
矢入　伸　氏
（令和2年1月17日）

佐藤　勝巳　氏
（令和3年5月5日）

秋月　宜仁　氏
（令和3年8月）

荒木　邦夫　氏
（令和4年1月24日）

●昭和47年度卒
青木　正　氏
（平成30年1月）

櫻木　光生　氏
（令和2年）

山崎　武　氏
（令和3年3月20日）

笹原　隆志　氏
（令和3年8月21日）

●昭和48年度卒
鞠田　源博　氏
（令和2年4月）

山中　孝三　氏
（令和2年10月15日）

岡村　雅彦　氏
（令和3年3月27日）

朱膳寺辰雄　氏
（令和3年3月30日）

西原　恒　氏
（令和3年5月15日）

宇根田　毅　氏
（令和3年5月30日）

吉田　正芳　氏
（令和3年6月9日）

●昭和49年度卒
佐々木英興　氏
（令和元年8月13日）

山崎　繁樹　氏
（令和2年7月14日）

三澤　保雄　氏
（令和2年12月29日）

井福　悌二　氏

●昭和51年度卒
油原　正治　氏

●昭和52年度卒
小田　敦司　氏
（令和2年10月）

●昭和56年度卒
金塚　京子　氏
（令和4年1月3日）

●昭和58年度卒
藤本　豊誠　氏
（令和3年3月23日）

山崎　清次　氏

●昭和60年度卒
杉本　勝則　氏
（令和3年4月）

●昭和62年度卒
長阪　泰道　氏
（令和2年10月）

十合　成幸　氏
（令和3年6月30日）

●昭和63年度卒
西尾　研　氏
（令和3年5月）

●平成4年卒度卒
久長　洋一　氏
（令和2年11月20日）

●平成8年卒度卒
田澤　恵美　氏
（令和3年2月25日）

●平成11年度卒
坂田　弘幸　氏
（令和3年3月20日）

ここに追悼の意を表し謹んでご冥福をお祈りいたします。

青々会ゴルフ会

◎第71回青々会ゴルフコンペが京カントリークラブにて令和4年5月26日(木)にコロナ禍で2年ぶり開催となった。参加者は13名で、結果は次の通り。
優　勝：泉山治郎（S50卒）
準優勝：柴谷　繁（S48卒）
第3位：大野　允（S43卒）
★第72回青々会ゴルフコンペ開催案内
▽日時：令和4年10月27日(木)開催予定▽場所：京カントリークラブ（千葉県山武郡芝山町山田1-28）▽会費：3000円▽プレー費は実費負担▽問合せ先：Tel 090-4077-7451、Fax 03-3527-3748、Eメール：Shouji@topaz.Plala.or.jp（代表幹事　安村省二・宮内隆）

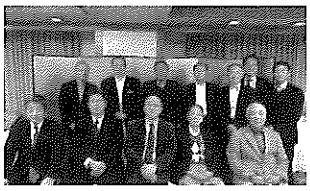
支部総会報告

■秋田県支部

令和3年11月13日(土)午後6時30分から秋田市の「アキタパークホテル」において新型コロナウイルス感染症対策を徹底し参加者15名で開催した。コロナ禍で例年の半数の参加であった。また青々会本部からの出席はなかった。

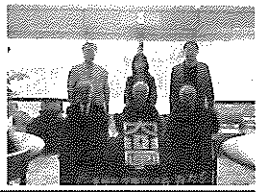
佐藤孝也支部長の挨拶後、議案の審議に入り①令和2年度事業・会計・監査報告②令和3年度事業計画・予算案③役員改選では支部長に工藤清光氏（昭和48年度卒）新任、幹事長に大鳴和弘氏（昭和55年度卒）留任とそれぞれ承認された。

秋田県支部は令和4年度東北連合会主幹支部です。東北連合会総会及び秋田県支部総会を令和4年10月22日(土)に開催いたす予定です。下記「開催予定」参照。



■和歌山県支部

平成4年4月16日(土)田辺市の「ホテルハーベスト南紀田辺」おいて新型コロナウイルス感染症対策を徹底し開催した。参加者は例年の半数以下の6名であった。またコロナ禍で青々会本部からの出席はなかった。



鈴木祐子支部長の挨拶後、議案の審議に入り①令和3年度事業・会計・監査報告②同4年度事業計画・予算案それぞれの議案が承認された。昨年から支部総会以外の活動は全くしていない。総会の日程の調整や会計等書類のやり取りはメールで対応し、また恒例の学生歌の斉唱もコロナ感染対策で中止した。

今回、参加会員の顔を直接見ることができて良かった。コロナ禍でもみんなが集まれる行事を今後の状況見ながら考えていきます。

総会開催予定

■岐阜県支部総会
◇日時　令和4年6月18日(土)午後5時から
◇会場　岐阜ワシントンホテルプラザ「11階スカイルーム」

■東北連合会・秋田県支部総会
◇日程　令和4年10月22日(土)
※時間・会場等詳細は調整中、決定次第青々会ホームページに掲載（関係者には別途ご案内）

支部総会・連合会開催にあたって

―青々会本部から―

新型コロナウイルスの全国規模での感染拡大によって、青々会の事業、活動も延期、休止せざるを得ない状況でしたが、収束こそしていませんが、徐々に感染者の減少傾向などにより会食での人数制限、時間制限なども緩和されてきています。

そうした中、全国の各支部から総会の開催についての問い合わせが届いております。青々会本部としましては、感染者数などの状況は都道府県や地域によって異なることから、開催の判断は各支部に委ねております。

支部総会のみならず連合会についても、同様の対応といたします。総会開催にあたっては、各支部長・幹事長、あるいは連合会長は、地元の状況を勘案いただき、開催の可否をご判断ねがいます。

お問い合わせは電話（0422―51―1600）かメール（sesekai@asia-u.ac.jp）でお願いします。

【日の出キャンパス再開発計画事業募金】

日の出キャンパスのスポーツ施設全体の整備を目的とした「日の出キャンパス再開発計画事業募金」を令和４年４月から開始いたしました。

本学は、今日に至るまで太田耕造初代学長の方針を受け継ぎ、学生がスポーツを通して社会に貢献し、心身ともに立派な人間として成長できるよう、学生スポーツの振興に力を注いでまいりました。

今後もスポーツ活動を活性化させ、より存在感ある大学へ発展してまいりますので、皆様に特段のご理解とご援助を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

募金の目的：日の出キャンパス再開発計画の事業資金
募集期間：令和４年４月１日から令和５年３月31日まで
募　金　額：法人／１口10万円、個人・団体／１口１万円
顕　　彰：寄付者の皆様に感謝を込めて、顕彰させていただきます。
○「広報アジア」にご芳名と寄付金額を掲載
○「寄付者銘板※」にご芳名を刻印
（法人／10万円以上、個人・団体／５万円以上（累計含む））
※日の出キャンパス　トレーニングセンター・クラブハウス棟（仮称）に設置予定。

【教育研究振興資金】

教育研究環境の充実を目的とした「教育研究振興資金」を令和４年４月から再開いたしました。

建学精神「自助協力」のもと、アジア各国やアメリカとの国際交流を軸に、広く産業界の期待に応えられる真の国際人を育成することを使命として、教育・研究活動を行ってまいりました。

今後も国際社会で活躍できる人材の育成に取り組んでまいりますので、皆様に特段のご理解とご援助を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

募金の目的：教育研究環境の整備及び活動振興資金
募集期間：令和４年４月１日から令和９年３月31日まで
募　金　額：法人・個人・団体／１口　１千円
顕　　彰：寄付者の皆様に感謝を込めて、顕彰させていただきます。
○「広報アジア」にご芳名と寄付金額を掲載
※申し込み方法は、大学公式サイト「ご寄付のお願い」をご覧いただきますようお願い申し上げます。（※ＱＲコード）

＜問い合わせ先＞
・寄付事業全体に関すること
総務部　総務課　TEL：0422―36―3241
E-mail：somu@asia-u.ac.jp

・申込や振込方法等に関すること
財務部　財務課　TEL：0422―36―3251
E-mail：zaimu@asia-u.ac.jp

"完全優勝"で全日本へ

東都大学野球　27度目のリーグ制覇

▲表彰式終了後の記念写真から

完全優勝で27度目のリーグ制覇、6年ぶりに全日本へ――東都大学野球春季リーグ戦で母校は、4月27日(水)の日本大学との第2回戦に11対0と大勝して4つ目の勝ち点を挙げ、令和2年の秋季リーグ戦以来通算27度目の優勝を決めた。春季リーグ戦では平成28年(2016年)以来6年ぶりの優勝となる。勝ち点3、単独首位で臨んだ4月26日の日本大学との第1回戦では、エースの青山美夏人(みなと)投手(法学4年・神奈川・横浜隼人高校卒)が完投で今季6勝目を挙げる活躍で先勝。翌27日の第2回戦では、ホームラン3本と相手内野手のエラーなどもあって3回までに10点をあげ、試合を決めた。投手陣も3人の継投で相手打線を1安打に抑えた。

そして迎えた最終週の対青山学院大学戦でも連勝して勝ち点を5とし、平成25年(2013年)の秋季(10勝1敗)以来の完全優勝を果たした。6月6日に開幕する全日本大学野球選手権に出場する。

なお、個人ではエースの青山投手が最高殊勲選手と最優秀投手に選ばれ、ベストナインにも同投手のほか、捕手の草部真秀君(法学4年・茨城・常総学院高卒)、遊撃手の田中幹也君(経営4年・東京・東海大菅生高卒)、指名打者で山下滉介君(経営学部4年・岡山・岡山理大付属高卒)が選ばれた。

全日本選手権は6月8日が初戦

6月6日から始まる第71回全日本大学野球選手権では、シード校として2回戦からの登場となり、初戦は3日目となる6月8日(水)に近大対和歌山大の勝者との試合が、東京ドームで11時30分から行われる。試合の結果は青々会ホームページでお知らせします。

教職員の定年退職者

令和4年3月末日をもって定年退職した専任教職員は次のとおり。

【教員】土肥原洋教授・松林幸一郎准教授(以上経済学部)、栗原孝教授・中野達司教授・新妻仁一教授(以上国際関係学部)

【事務職員】五味和美さん(入試部)、齋藤広さん(企画部)、古川博文さん(教務部)

令和4年度入試結果

同窓生子女入試は3人が合格

令和4年度の入試結果は下表のとおりであるが、この中に含まれる同窓生入試(これまでの時別推薦入試)では、経営学部経営学科と、同学部ホスピタリティ・マネジメント学科がいずれも志願1・合格1、経済学部経済学科が志願2・合格2で、法学部法律学科の志願はなかった(数字は人数)。

令和4年度入試結果

(各種推薦入試、一般入試、留学生入試など)

学部学科	志願者数	合格者数
経営学部経営学科	2,198	1,007
経営学部ホスピタリティ・マネジメント学科	590	338
経済学部経済学科	1,597	514
法学部法律学科	1,540	796
国際関係学部国際関係学科	902	462
国際関係学部多文化コミュニケーション学科	699	428
都市創造学部都市創造学科	719	396
大学計	8,245	3,941

※同窓生入試(旧・特別推薦入試)も含む。

産経新聞社の社長にOBの近藤氏内定

昭和61年度に経済学部国際関係学科を卒業した近藤哲司(こんどう　てつじ)氏が、産経新聞社の新社長に就任することが決まった。

5月の取締役会で内定し、6月24日に開かれる株主総会の取締役会で正式に決定する。

近藤新社長は、1987年に産経新聞社に入社、産経デジタル代表取締役社長などを経て2020年6月から専務取締役統括となっている。現在62歳。

証明書の申し込みについて

卒業生についての卒業証明書等の申し込みは、教務部教学センター証明書係(ダイヤルイン0422―36―3254)に電話のうえ、証明書の種類や必要枚数などの基本的な事項をお伝えください。WEBによる申し込みは大学のホームページで確認してください。

事務組織の一部を改編

令和4年4月1日付で事務組織の一部が次のとおり改編された。

◆企画室から企画部に改称＝企画経営課、広報課の2課体制に。

◆学生部は3課体制に＝スポーツ振興センターを学生部に統合し、学生センター、キャリアセンター、スポーツ振興センターの3課体制に。

◆入試部＝入試・広報センターを入試部アドミッションセンターに改称。

学長就任にあたって

「計画」を表に、そして「有言実行」

学長　永綱　憲悟

昨年10月に学長(第12代目)に就任しました永綱憲悟と申します。青々会会員の皆様、よろしくお願い申し上げます。

「楽しくなければ大学じゃない　面白くなければ学問じゃない　アジアと共に亜細亜大学」。

就任時に私は、このようなスローガンを掲げました。「楽しさ」を強調したのは、新型感染症のもとで落ち込みがちとなった気分を明るくしたかったからです。「面白さ」を唱えたのは、知的好奇心の大切さを指摘したかったからです。そして「アジア」を表に出したのは、本学がもっとアジア学修および研究を強化すべきと考えたからです。

これを念頭に、昨年度秋学期(年度の「後期」をこう呼ぶようになりました)、いくつかの施策を展開しました。まず、小規模ながら対面開催とした80周年記念式典(同時オンライン配信)では、落合寛司青々会会長にもご出席いただき、御祝辞を頂戴いたしました。ついで、本学園理事にご就任いただいた八(株)ニトリホールディングス〇の似鳥昭雄会長には講演会・座談会でご登壇いただき、同日にクリスマス・イルミネーション点灯式を行いました。

就任時に私は、このようなスローガンを掲げました。「楽しさ」を強調したのは、新型感染症のもとで落ち込みがちとなった気分を明るくしたかったからです。「面白さ」を唱えたのは、知的好奇心の大切さを指摘したかったからです。そして「アジア」を表に出したのは、本学がもっとアジア学修および研究を強化すべきと考えたからです。

これを念頭に、昨年度秋学期(年度の「後期」をこう呼ぶようになりました)、いくつかの施策を展開しました。まず、小規模ながら対面開催とした80周年記念式典(同時オンライン配信)では、落合寛司青々会会長にもご出席いただき、御祝辞を頂戴いたしました。ついで、本学園理事にご就任いただいた八(株)ニトリホールディングス〇の似鳥昭雄会長には講演会・座談会でご登壇いただき、同日にクリスマス・イルミネーション点灯式を行いました。

そして2月には、感染症罹患に留意しつつ、金学で39名の学生をアメリカ、ワシントン州2大学に約2か月間派遣し、2年ぶりに実留学派遣を実施しました。さらに3月には本学アジア研究所主催で緊急シンポジウム「ウクライナ危機と国際関係」を開催しました(現代ロシア政治を専門とする私もプーチン大統領について少し語りました)。

いずれも大学が活発に動いていることを外に向けて発信したいという思いから出たものです。そして、本年4月からは、全面対面授業を再開させましたいま、教室では教員が学生たちの直接の反応に新鮮な感動を覚え、キャンパス広場では部活サークル勧誘の学生たちの声が飛び交っています。まさに「楽しい大学」です。

そしてこの間、3月の理事会評議員会では「第3期5カ年中期行動計画(2022年―2026年)」をご承認いただきました。この中期計画では「多様な夢に挑み、アジアの未来に飛躍する創造的人材の育成」という、これまでのミッションを受け継いだうえで、複数の領域にわたり新たな「アクションプラン(重点行動施策)」を掲げました。

まず「国際化施策」では、直接の反応に新鮮な感動を覚え、キャンパス広場では部活サークル勧誘の学生たちの声が飛び交っています。まさに「楽しい大学」です。

そしてこの間、3月の理事会評議員会では「第3期5カ年中期行動計画(2022年―2026年)」をご承認いただきました。この中期計画では「多様な夢に挑み、アジアの未来に飛躍する創造的人材の育成」という、これまでのミッションを受け継いだうえで、複数の領域にわたり新たな「アクションプラン(重点行動施策)」を掲げました。

まず「国際化施策」では、当然ながら「アジア交流拡充に重点をおき、受け入れ留学生数そして留学派遣人数をパンデミック以前の水準に戻すと宣言しました。

また「教育・研究活動施策」では基礎教育に重点をおきましたが、その施策を次年度からは△21世紀亜細亜ベーシックス〇(履修必修もしくは強く推奨する科目群)として打ち出します。具体的には①文章表現　②フレッシュマン・イングリッシュ　③情報と社会　④各学科初年次ゼミ　⑤アジア地域体験(観光を含む)もしくは「アジアを知る12章」ほかアジア関連科目の履修、以上5つを必修または推奨することとしました。

そして「社会連携施策」の一つでは、「卒業生向けの広報(SNS等)を強化し、在校生との交流機会を拡充」するという方策を掲げました。すでに青々会の方でも、HPやウェブ掲示板の紹介拡充をはじめ、ネットワーク強化に努めていると伺いました。まさにデジタル時代だからこそ可能になる連携があります。その際大切なことは、僭越ながら、フラットな関係構築かと思います。先輩や後輩といった縦の軸にあまりこだわらず、皆が公平に情報を伝え、また意見を述べ合うような、楽しい場が生まれることを期待しております。

ところで今回「青々会」の来歴を確認する中で、面白いことに気づきました。皆様はどうにご存じのことかも思いますが、披露させていただきます。学園史によれば、青々会は、興亜専門学校の前身である学塾「青々寮」から来ており、西郷南州の「山は是れ青々、花は是れ紅なり」であるとされています。

ところが実際には、西郷はそのような詩を読んではおらず、明治の政治家△古人△山は自ずから青々　花は自ずから紅なり〇という詩があるようです。こちらは、山は自然に緑となり、花は自然に赤く咲くということで、議論の不毛を訴え、△不言実行〇を謳ったものとされています。その趣旨が西郷の人生にふさわしく思えたので、西郷作とされたのかもしれません。

いずれにしても、「不言実行」は、實実を旨とした当時の校風とも調和し、のちの「自助協力」にも繋がりうるように思えます。一方で、現代は、先に述べたように、「計画」を表に出してその実施度を逐次チェックするという「有言実行」が迫られている時代です。口に出さなければ感謝の気持ちも、好きな思いも伝わらないと、としばしば言われます。しかし、不言であれ、有言であれ、最後に評価されるのは「実行」、何をやったかということです。皆様のお力を得ながら、亜細亜大学を少しでも良くするために、実行に励みたいと思います。引き続き、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

学部・学科・学年別学生数

2022年5月1日現在

学部	学科	1年			2年			3年			4年			学部学科総数		
		全体	内女子	内留学生	全体	内女子	内留学生	全体	内女子	内留学生	全体	内女子	内留学生	全体	内女子	内留学生
経営	経営	391	124	30	349	124	29	329	100	39	376	128	28	1,445	476	126
	ホスピ(注1)	156	104	0	163	119	0	163	115	0	155	127	0	637	465	0
経済	経済	275	60	2	260	51	2	254	53	3	278	55	4	1,067	219	11
法	法律	357	91	0	325	72	1	355	86	1	368	87	0	1,405	336	2
国際関係	国際関係	141	70	4	149	83	6	147	87	7	137	73	4	574	313	21
	多文化(注2)	150	99	4	142	108	5	132	90	7	142	105	8	566	402	24
都市創造	都市創造	143	44	6	162	60	9	144	42	9	141	50	14	590	196	38
大学計		1,613	592	46	1,550	617	52	1,524	573	66	1,597	625	58	6,284	2,407	222

(注1)ホスピタリティ・マネジメント学科、(注2)多文化コミュニケーション学科